

沼津夜間救急医療センターで発生した 使途不明金への対応は

未
来
の
風

問 沼津夜間救急医療センターにおいて約二億五千万円の使途不明金が発生した事件について、①指定管理者の委託者としての責務は。②市民の信頼回復に向けた取組は。

答 市長 ①平成十八年度に指定管理者制度を開始し、歴代の市長の下で実施してきた事業について、市民や関係者に迷惑や不安を招いたことと、現市長として重く受け止めている。現在、施設を運営する沼津夜間救急医療対策協会により刑事手続が進められており、今回の事案が起きた原因や経緯、今後の改善策の検証

等の進捗状況を踏まえ、市として適切に対応していく。②行政としては、まずは初期救急医療の円滑な提供を確保した上で、今回の事案について改めて原因や経緯、それぞれの立場で検証した改善策を丁寧に説明し、業務全般においても透明性の高い運営に努めていくことが肝要であると認識している。



▲使途不明金が発生した
沼津夜間救急医療センター

山下 富美子



新中間処理施設敷地内の 汚染土への対応は

未
来
の
風

問 新中間処理施設の建設予定地において、残置されていた旧ごみ焼却施設の貯じんピット内の土砂から有害物質が検出された問題について、①汚染物質を含む土砂及び貯じんピットが残置された経緯は。②住民説明会を開催する考えは。

答 生活環境部長 ①これまで当該施設解体時の記録や資料の探索を行うとともに、当時の関係者へのヒアリングを行ってきたが、確実な情報は得られていないことから、土砂等が残置された経緯の詳細については現時点では不明である。また、貯じ

んピットに関しては、平成二十九年に土地利用履歴調査を実施して以来、現在に至るまで資料等でその存在が確認できなかったことに加え、上部がコンクリート舗装で覆われていたため、ピットの存在が明らかにならなかったものである。②周辺住民の理解をいただき、安心して生活を送ることができるよう、汚染土の処理に先立ち、汚染原因の調査結果と土壌汚染対策に精通する専門家の見解等を踏まえた処理方針について、住民説明会を開催し説明していく予定である。

江本 浩一



誰一人取り残さない社会の実現に 向けた本市の取組は

無
所
属

問 日々の生活に課題を抱える人など、誰一人取り残さない社会を目指すべきと考えるが、市長の目指す「誇り高いまち沼津」の内容と実現に向けた新年度の取組は。

答 市長 「誇り高いまち沼津」を実現するためには、沼津駅周辺総合整備事業等により、都市的魅力を向上させることに加え、子どもから高齢者までの誰もが心身ともに健康で明るく元気に生活できる環境づくりや、全ての市民が支え合いながら健やかに暮らせる地域共生社会の実現などが重要であると認識している。

新年度における実現に向けた具体的な方策としては、中心市街地まちづくり戦略に基づく取組や、総合的治水対策事業による災害対策など、着実な都市基盤整備を進めていくとともに、乳幼児の健康増進を図るための一か月児及び五歳児健診の実施や、健康長寿の実現に向けたフレイル対策のほか、複雑・複合化した生活課題を包括的に受け止める重層的な支援、物価高騰に伴う学校給食費の増額分の公費負担等の取組により、市民の誰もが健康で、心豊かに暮らせるまちづくりを推進していく。

平野 謙



本市の有機農業の拡大に向けた 取組に対する認識は

無
所
属

問 有機農業の拡大に向けた課題の認識と今後の取組は。

答 市長 有機農業は、化学肥料や化学農薬を使う農業手法と比較し、有機質肥料による栽培や農薬を使用しない害虫駆除など、手間がかかる上に高コストとなること、さらに有機農産物の市場価格が安定していないことから、収益性の確保にも課題がある。また、JAS法に基づく厳しい基準をクリアする必要があるため、認証プロセスが煩雑であることなど生産者の負担が大きく、有機農業を実践する農業者は本市を含め全

国的にも少ない。しかしながら、本市においても環境に配慮した持続可能な農業への取組が重要であると考えることから、今後もJAや関係団体等と連携を図りながら、有機農業に取り組んでいく、または取り組んでみたいと考えている農業者の情報収集を行うとともに、必要な支援を実施していく。



▲市内で行われる有機農業

久保田 吉光

